

## F-1ドライバーのフィット感

F-1日本グランプリで、見事優勝を飾ったセバスチャン・ベッテル選手より、使用したヘルメットが戻されました。アライは、日本人の小林可夢偉、山本左近、また、ルイス・ハミルトン、ジェイソン・バトンなど、過半数を超えるドライバーに使用されています。

F-1マシンのドライビングは過酷です。ベッテル選手の予選タイムは1分30秒。2輪の鈴鹿8耐の予選タイムよりも、なんと37秒以上速い驚異的なタイムです。300キロまで瞬時に上がる加速と、S字コーナーから逆バンク、デグナー手前まで全開で駆け抜けるコーナーリングには、5G近くの横Gが加わり、ヘルメットの重量も5倍以上にも感じる負担が生じます。しかも、その過酷な条件の中で、ドライバーは、無線を通じて、ピットと交信させているのです。

F-1の世界でヘルメットに求められる条件は、ドライバーの集中力を妨げないために種々あります。その中で、最も重要なのがフィット感です。前後左右に振れる過酷なGに耐えながらも、交信にて会話さえしなければならぬ環境下でのフィット感とは、きつくもゆるくもなく、かぶった瞬間の心地よさを、300キロの加速時でも、強烈な横Gの中でも保つフィット感です。ヘルメットが頭の一部に感じるようにする事です。

アライのフィット感は、長年の歴史の積み重ねにより生まれています。ライナーの内径を人間の骨格に合わせ、ホホ部下部からも包み込むようなフィット感を生み出してきました。その結果、セバスチャン・ベッテル選手のヘルメットサイズはノーマルのSサイズです。特



### FCS (Facial Contour System)

別にサイズを調整しなくとも、快適だと満足しています。

もちろん、F-1ドライバーが満足するフィット感は、2輪用ヘルメットにそのまま生かされています。特にアストロIQに採用されたFCSは、ホホ部下部から包み込むような優しいフィット感をさらに進化させています。ぜひお試しください。



**Sebastian Vettel**

セバスチャン・ベッテル

